

いろんなひとがつくったおべんとう

守口小学校 一年 朝田 明路

おとこのこのおべんとうにはいつていたのはきょうのおかずとかかれたメモだった。おかあさんがつくってくれただけじゃなくて、たまごやじゃがいもがどうやってできるのかどこからやってきたのかまでかかれていた。

おにぎりはごはんとりのりをまいてつくるけどあのかたいおこめがやわらかくてあったかいごはんになるのがふしぎだとおもう。ぼくもくるくるたのしくおこめをといだけどひとつひとつはちいさい。でもおこめのふくろはおもい。なんでなんだろう。

ぼくがそだてられるのはミニトマトくらいかな。でもにねんまえにそだてたときは、みずをまいにちあげていてもかれてしまった。わくわくたのしみをしていたのにあかいみになるまでそだてられなかった。なにかをはじめからつくるってうまくいかないこともあるんだなっておもった。

ぼくはたまごやきがすきだ。ぼくのおかあさんがやくのはしおだけはいつてる。だからぼくのおかあさんといっしょにほんにのっているチーズいりたまごやきをつくってみたよ。たまごのカラをわったらカラがつぶれてなかにはいつたり、やくときにくるくるとうまく

まけない。いつもはチーズをいれないからこげちゃっておかあさんもあわててた。でもできあがったたまごやきはとろりとしておいしかった。つぎはひとりでやりたいな。つくるのはたいへんだけれど、たのしい。

このたまごをたまごやきにつくったのはぼくだけれどニワトリからたまごをあつめて、パックしてはこんで、スーパージョウロウにならべたのはぼくのしらないひとたちだ。しらないけどなにかうれしい。おいしくたべてもらおうってつぎのひとへわたしてくれたとおもうから。

ぼくもなるべくじぶんのたべるぶんはじぶんでつくってのこさないようにしたい。だつてのこしてしまつたらたべものをつくつてはこんでくれたひとたちにおいなくなつてきもちになるからなんだ。

なにがあってもずっといっしょ

さくら小学校 一年 久保 莉衣奈

わたしは、いぬがすきです。そこで、としよかんへいってみると、おもしろそうないめいと、かわいらしいしばけんのえがかかれた本にであい、よんでみました。

この本は、さすけといういぬと、かいぬしのさちこさんのおはなしで、さちこさんがにゆういんをしてしまったことで、ほかの人やどうぶつたちのやさしさにきがついて、いぬでもにんげんとおなじで、きもちがつたわったり、かんじたりするので、ことばだけではないことをおしえてくれる本です。

ここにのこったばめんは、さちこさんがとつぜんいえにかえってこなくなり、はなればなれになってしまいきすけはとてもさみしくてかなしそうだった。いぬとにんげんでもこころはつながっていることをしることができました。

なぜここにのこったかというと、さいしよはさちこさんがくれるものしかたべなかつたり、ほかのいぬにもやきもちをやいていたけど、さちこさんがにゆういんをし、かえってこなかったときに、まわりの人やねこやいぬたちにやさしくしてもらったことで、まわりの人たちのやさしさにきがついて、さちこ

さんがいの人からもらったものをたべるようになったので、このばめんがとてもよかったです。

いぬとことばがつうじなくても、きもちはずうじるし、やさしくしてもらうと、うれしーし、わたしもやさしくなれるので、これからは、いままでいじょうに、まわりの人やどうぶつたちをたいせつにしていきたいです。